

介護等体験記録

 学部名 農学部

 学科・課程名 食料環境経済学科 学年 3

学籍番号 _____

 氏名 空原希美

施設名 _____

 期間 2012年10月15日～2012年10月19日

★体験事前目標

障がい者の方としっかりコミュニケーションを取れるよう努力し、必要な手助けや関わり方を学ぶ。

	体験内容	感想
1日目 10/15 (月)	メンバー 支援	施設の「メンバー」の方々が何かを伝えようとしてされている行為なのか、それとも私がその方と関わろうとしていることには気づいておられないのか、わからないことが多く戸惑いました。ただ、喜ばれる行為というのは少し気づいたと思います。
2日目 10/16 (火)	メンバー 支援	今日は昨日のことをふまえて話しかける時は自信を持って話しかけることができました。職員さんに話しかけられるタイミングもつかめて、より理解できるように質問しながら見学でき、必要な支援について考えることができました。

	体験内容	感想
3日目 10/17 (水)	メンバー 支援	近くに来てほしいなどサインを出して下さる方には自分から関わりに行くことができたのですが、積極的に話しかけにいかないといけない方には何をしていいかわからず、施設の方が関わってらっしゃるのをとにかく見学するだけになってしまいました。
4日目 10/18 (木)	メンバー 支援	今日は利用者の方にお茶セリーを飲んでもらう助けをさせていたのですが、見学していた時より難しく、ちゃんと考えて行わなければならないと感じました。職員の方が話しかけて下さり、そこでようやくメンバーの方と話せたという形で、職員さんに感謝の気持ちでいっぱいです。
5日目 10/19 (金)	メンバー 支援	今日、3回目のお茶セリーを飲むお手伝いをさせていた時に、利用者の方がなかなか飲みこんで下さらなかったのて、普段その方が飲み込む時にされているじさのまねをすることでやって下さいました。初めてコミュニケーションを取れた気がして感激しました。その後、普段職員さんにしか示されない7化サインを私に出して下さいたこともとても嬉しかったです。

介護体験感想

★体験時に学んだこと、得たこと・感想

今回は知的障害だけでなく、身体的障害も併せ持っておられる重度心身障害者の方と関わらせていただきましたが、命に関わる重要な対応が必要な時と、リラックスして過ごしてもらうための姿勢が必要な時との頭の切り替えが難しく、気持ちが常に張った状態で、難しかったです。自分が何をしたらいいかわからず、障害を持つ方の方から目を向けてもらったり、何かを求められたりするのを待つようなことになってしまいました。職員さんは慣れたペースで一緒に過ごされており、これが必要なのだ、と思いました。

障害をお持ちの方と関わる時は、必要な手助けができるのは当たり前であり、それ以上のこと、コミュニケーションを取り、共に明るく毎日を過ごすことができる、ということのための努力をしなければならないと思いました。このことのヒントとして、今回の実習を通して気づいたことは、「喜び」の感情は共有しやすく、コミュニケーションを取るきっかけになりやすいということです。笑顔になろうための努力をする、笑顔というサインで返して下さる、それが一番最初のコミュニケーションであるのかなと思いました。